

訪問看護推進事業 医療型多機能サービス

一言語聴覚士の立場から



医療法人あいち診療会 あいち診療所野並
言語聴覚士 中河亜由美

はじめに

目的

重症心身障がい児・者の在宅療養の充実

概要

訪問看護ステーションに所属するリハビリ専門職が日中預かり施設を訪問し、専門アプローチを行う。

対象者A

5歳 女性

【診断名】福山型筋ジストロフィー

口唇口蓋裂術後

【障害名】言語発達遅滞

関わり: 言語聴覚士、看護師

共に週3回

初回評価

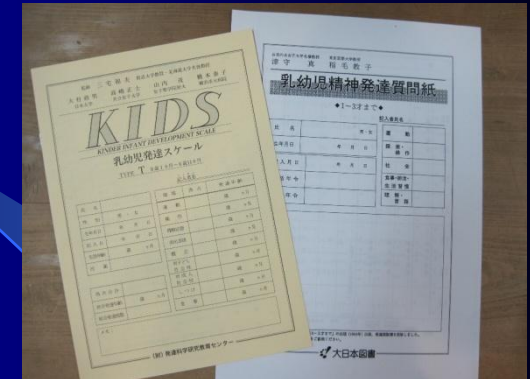
日常の様子

- コミュニケーション意欲は比較的高く、周囲の介護職員の注意を惹こうとする。
- 発語は「あーあ」、「ばーやん」、「ばいばい」のほぼ3語に限られる。
- 情緒不安定になると大声を出し続けることもある。

全般的発達の評価

<KIDS 乳幼児発達スケール>

- 生活年齢 5歳11か月
- 総合発達年齢 0歳10か月



<津守・稲毛式：乳幼児精神発達質問紙>

- 生活年齢 5歳11か月
- 総合発達年齢 0歳10か月

長期目標

要求を具体的に伝えられる意思表出手段
の獲得

短期目標

- 聴覚的な理解力の向上
- 簡単な日常語の音声表出の獲得
- 日常物品の身振りによる理解、表出ができる

訓練内容・指導内容

- #1 コミュニケーションの基礎の学習
(人とのやりとり、交互の関係の理解)
- #2 言語コミュニケーション強化
(理解語・表出語の増加)
- #3 意思表示のための指差し・ジェスチャー

1、物の受け渡し

第三者と共に、物品を「どうぞ」・「ありがとう」と身振りをしながらやり取りする見本を見せる。

2、言語刺激の強化

日常物品等に注目させ、同時に言語刺激。
“物には名前がある”ことへの興味の促進。

3、指差し(ジェスチャー)

ジェスチャーを多用する。

1、物の受け渡し

“人とのコミュニケーションを築く手段”
として認識

2、言語刺激の強化

聴覚的刺激からの発語が可能。

人の言葉を繰り返すことが多くなった。

3、指差し(ジェスチャー)

意味(示したいもの)と動作の関係が
理解された。

全体の発達評価



<KIDS 乳幼児発達スケール>

- 生活年齢 6歳7か月
- 総合発達年齢 1歳2か月(前回比+4カ月)

<津守・稲毛式:乳幼児精神発達質問紙>

- 生活年齢 6歳7か月
- 総合発達年齢 1歳0か月(前回比+2か月)

まとめ

訪問リハビリの効果

- 言語・コミュニケーションへの興味が増進。
- 明らかな発語の増加、コミュニケーション能力の向上。
- 集中できる時間の延長。

訪問リハビリの効果 —母親の声—

- **言語の獲得を特に実感。**
- 「何もかも自分でやらなくてはいけない」というプレッシャーから解放され、専門家に任せる必要性を自覚。
- 今までには親の都合で訓練に連れていけない罪悪感があったが、移動しなくても訓練が受けられ、とても良かった。

今後の課題

- 他職種や家族への指導や報告等の情報の共有の徹底。
- 今回のモデル事業のように、訪問リハビリを提供できる場が必要。

ご清聴ありがとうございました。